

2023年9月8日

今月のひとこと

【Vol.249】 今月のひとこと

今月の
ひとこと

「お金の呪縛」から解放されること

私は人生の目的を「幸せ持ちになること」と定義しています。お金持ちになることでも、出世することでも、有名になることでもない。とにかく幸せ持ちになることです。

そしてその幸せ持ちになるために、6つの富（資産）ということを常々お話ししています。順不同ですがそれらは心身の健康であり、家族など愛する存在、友達と交友関係、楽しみや趣味、社会貢献、そして金融資産です。これらがバランスよく大きく広がっているほど幸福度は高いと思います。

一般に資産というとお金や物的な財産と考えがちですが、これら六つのすべてがお金と同様の資産であることを知る必要があります。ある意味、「お金の呪縛から離れる」ということが、私はとても大事だと思っています。

私は人生の3つのステージというお話もしています。まず、学びの時代、人的資産の形成期です。そして2番目の働きの時代、就職して、徐々に知識、経験、倫理観を備えた本当のプロになっていく時代です。最後の3番目が遊びの時代です。自分が心の底から楽しいことをしていると、それがそのまま世の中のためになり、社会に対するご恩奉公の時代です。

資産運用については、私は資産形成と資産運用があるといつもお話しています。資産形成は、就業中の人々が現在得ている所得の一部を、将来の自分のために増やしていく。資産活用は、形成した資金を生活費のために取り崩しながら同時に運用を続けていく。そのようなものだというふうについてお話してきました。

しかし、私自身、「資産＝お金」という既成観念に囚われていたのではないか気づいたのです。資産形成、資産活用というときの資産という言葉は決して金融資産だけではないということです。最初に述べた6種類の資産すべてです。

例えば、資産形成時代には健全な心身を作るための投資。そして家族とか愛する存在、ペットなどに対して愛情を注ぐ喜び、楽しい温かい思い出という資産を形成する。交友関係を広げ、趣味を深める。また、社会貢献を通じて人々の役に立つことの喜びを知る。お金もゆっくりと価値の増加を眺める。

そうして、資産活用の時代には全体のバランスを大切にしながら、生活のための資金を取り崩していく。資産形成の時代に培った資産を活用しながら、豊かで幸せな生活を送っていく。そのように考えてくると、お金というのは大事ではあるがすべてではない。



資産＝お金、そろそろ、そんな発想から抜け出すべき時期ではないかと思います。私は日本全体がとても貧しかった昭和20年代、少年時代を過ごしました。でも、空から爆弾が落ちてこない、衣食住すべてが本当に貧しかった。でも、みんな平和であるだけで明るかったのです。三丁目の夕日の世界ですね。

その時代に戻るべきだとは言いませんが、そういう割り切った意識。人生の目的は幸せ持ちになることだ。投資をして金融資産のみを増やすことではない。それだけが人生の目的だったらこんな寂しいことはないでしょう。資産所得倍増は良いことです。でもここでいう資産は最初に述べた資産全体をしあわせにするすべての資産であるべきだと思います。（岡本和久筆）



FIWA®からのお知らせ・セミナー予定

FIWAマンスリー・セミナー #216

開催形式： On Line

主催担当： 赤堀薫里

開催日時： 9月17日 12:30～15:30

講演・講師：

岡本 和久「ウォール街のランダムウォーカー」を読みとく第2回「プロの投資家の成績表～テクニカル分析とファンダメンタル分析」（全4回）

経営・金融コンサルティング/福岡大学非常勤講師 津曲 真樹 「金融経済教育が目指すもの」

備考： お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります<https://happymoney.stores.jp/>

FIWAマンスリー・セミナー #217

開催形式： On Line

主催担当： 赤堀薫里

開催日時： 10月15日 12:30～15:30

講演・講師：

岡本 和久「ウォール街のランダムウォーカー」を読みとく第3回「新しい投資のテクノロジー～FIWA®リスク・リターン・相関、CAPMと行動ファイナンス」（全4回）

澤上 篤人氏「資産運用業界のチャレンジ？大きく変わる投資環境？(仮)」

備考： お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります<https://happymoney.stores.jp/>

FIWAマンスリー・セミナー #218

開催形式： On Line

主催担当： 赤堀薫里

開催日時： 11月19日 12:30～15:30

講演・講師：

岡本 和久「ウォール街のランダムウォーカー」を読みとく第4回「ウォール街の歩き方～財産の健康管理、インフレ、ライフサイクル、三つのアプローチ」（全4回）

平山賢一氏 「インフレ、日銀政策、ETFなど（仮）」

備考： お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります<https://happymoney.stores.jp/>

FIWAマンスリー・セミナー #219

開催形式： On Line

主催担当： 赤堀薫里

開催日時： 12月17日 12:30～15:30

講演・講師：

岡本 和久「ウォール街のランダムウォーカー」を読みとく第5回「兜町、散歩の仕方」（最終回）

代表取締役社長 兼 最高運用責任者 伊井 哲朗氏

「世代を超える30年目線で歩み続ける（仮）」

備考 お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

FIWA presents 「FIWAみんなのお金チャンネル（YouTube）」配信中

岡本和久のDIY資産運用講座など過去、現在の動画をご覧ください。

<https://www.youtube.com/@fiwa8445>



FIWA presents 「マネーマネーマネーfor you」開催中

金融商品の販売にかかわらない独立系アドバイザーが集まってNPO法人みんなのお金のアドバイザー協会（FIWA）で、新しくポッドキャスト配信を始めました。ポッドキャストとは、後からいつでも聞くことができるラジオのようなものです。今後はFIWA会員のゲストトークも予定しています。



パーソナリティは小屋と、キャサリンとナンシーの3人が務めています。お金に関するさまざまな気になることを楽しく語っています。40代の子育て中の3人が幅広くFIWAのことを知ってもらうために、頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。



マネーマネーマネーfor you



今月号の記事をすべてダウンロード

このページを印刷する

カテゴリー

今月のひとこと

タグ

【Vol.249】 2023年09月15日発行



📅 2023年9月8日

FIWAマンスリー・セミナー講演 1

【Vol.249】FIWAマンスリー・セミナー講演より（講演1）

近時の相続関連法関連の改正ポイント&終のデザインを4つのマトリクスで考える

講演：桑瀬登起子氏
レポーター：赤堀 薫里

Consulting Office 桑瀬 桑瀬登起子（司法書士/FP/宅建士）プロフィール

一般会社（広告関係）勤務後、海外渡航（フランス）。帰国後、勘違いから全く異分野の法律系に転身。司法書士資格を取得し2006年から当該業務に従事。

専門職後見人の経験も踏まえ、終活と呼ばれる人生の最後の準備を、より主体的に自分でデザインする「終（つい）のデザイン」と捉えなおし、顧客と“ともに”検討するスタイルで、贈与・遺言、相続の支援業務を、日本国内及び日仏間の国際相続を含めて展開中。



法律面+おカネの観点から「終（つい）のデザイン」のサポートも実施中。

【仕事のモットー】

「ご縁」を大事に、第一に。
地道にコツコツと専門的な知識を深め、独創的に活かし、顧客のしあわせと一緒に探求する。

【執筆等】

「終（つい）のデザインのススめ～己の最後を決めるための日本における相続・遺言の基礎知識」とのタイトルで、在仏日本人会会報Journal Japon（隔月発行）に2014年以降執筆連載中。

「ケースブック 渉外相続登記の実務」（2020.5民事法研究会発行）のフランス人の相続部分を執筆担当。

『相続』の大事な点が変更になっていることをご存知ですか？人生100年時代。2019年くらいから民法、相続法関係が改正になっています。ただ、相続といっても亡くなってからの話です。でもその前に考えることや、やることはたくさんあります。主体的に自分事として終のデザインをしていくということをどうすればいいのか。それが講演者である私の問題定義です。

人生100年時代でもまだまだ皆さん何か対策しようということにはなっていません。それは資産形成やお金の話も一緒です。お金の話と死ぬ話はしたくない話だと思います。でもまさにそこそしなくてはいけないのではないのか。それが私たちのやることではないのかと思っています。

相続に関する法律の改正や民法の改正に絞って見てみます。

『配偶者居住権の新設』『遺言制度に関する見直し』『遺産分割等に関する見直し』『遺言執行者権限等の明確化』『遺留分制度に関する見直し』『相続登記の義務化』『相続した土地の放棄制度がスタートします』と、結構あります。

2020年4月からスタートの『配偶者居住権』は、まだあまり普及していませんが、実務的には、ぼちぼち使われ始めています。フランスの制度を参考に作られました。夫婦がいて、大体、日本の場合、不動産はお父さん名義です。お父さんが先に亡くなってしまおうと、お母さんが一人になってしまう。子供がいなく、ご主人の兄弟相続になってしまうと、その時にあまりお金がなくてお家だけだと追い出されてしまうということが頻発していました。

それを何とかできないのか。日本の場合、所有権は一つですが、それを配偶者のみに対して設定できる、住めるだけの権利を作りました。

これを作ったのはいいのですが、フランスの制度は、もっと年金化できる制度で、それを第3者に売買できます。しかし、日本の制度はそうにできていない。なかなかマーケットに乗りにくいのではないのか。この制度に対してほぼ検討が終わった時から注目をしていました。税務的には多少優遇があり、この居住権を設定することで、相続税が多少下がるので、それを進める税理士の先生方がいます。しかし、これを実際に設定した場合、何かの拍子で入院、病気、脳梗塞とかになってしまい施設に入り、意思表示ができないということになった場合、この配偶者居住権を換金することは、結構ハードルが高い。今後、これがどのようになっていくのか、注目していかなくてはいいけない。あまりうまくいかないとは多分制度は多少変わっていくと個人的に思っています。

暦年贈与の税制も年明け改正。毎年110万円ずつ贈与できるという仕組みがあります。110万円以下だと税金が掛からない。これは改正で、相続の財産に上乗せされてしまうと決まってスタートします。相続税は取れるところからどんどん取っていきこうというのが、国の方針だという感じではあります。

手始めに、遺言の必要性がアップという予感がします。まず所有者不明の土地が九州ほどの土地の面積だという事実。また高齢化の進展。登録義務がなく放置された土地が増加、北海道ほどの面積規模になるかも。これに対して、相続登記を義務化したら何とかなるだろうと来年から始まります。相続登記を義務化したからといっても、相続人が皆で話し合って遺産分割協議ができるとは限らないです。やはり、持っている人がちゃんと決めなくてはいいけないのではないのか。そこで大相続時代のニュースタンダードということで、ちゃんと遺言で決めるのがいろいろな意味でいいのではないのか。手続きの簡便化もありますし、争続にならないためにもそうしたらどうでしょうか。

全体を見てもらい、俯瞰して考えましょう。後見制度についても検討しておき、お子さんが統合失調症や、ニート等で心配されている方もいっぱいいます。その場合、早めに手を打っておきましょう。ただ、いろいろな事をやっても全てがどうにかなるわけではありません。家族信託も、家族内で誰かに預けておくということではできませんが、やはり想定外が起こります。

遺言もそうですが、「完璧な対策はない！」と心得ることがいいでしょう。どんなに費用とお金を掛けても人生100年時代なので、想定外は起こります。あまり深刻になりすぎず、俯瞰的に検討して備えることがいいと思います。お金の話や相続の話をつランクに話せるという周りの環境も大切です。話をすることで、他の人が知っている専門家が良かったとか、自分は分からないけれど、この人であれば、こういう人を知っているかもしれないということがあります。そういう意味でも関係ない人といっぱいつながっていることが一番大事なのではないのかなというのが、相続に関わっている専門家としての私個人の意見です。

講演では、『相続』に関する法律改正点について、遺言作成にあたっての心得や、遺言作成時のキーワードの説明。最後に終のデザインの方法を4つのマトリクスを使いわかりやすく解説いただきました。

Free Discussion

参加者 | 子供のいない叔父叔母の遺言書を作るところから弁護士に入ってもらい、ずっとサポートしてもらいました。去年両方亡くなりました。家族信託は会計士さんから提案を受けました。でもよくメリットが分からない。私は投資信託をずっとやってきたので、投資信託の信託財産管理という、割とかつちりとしたスキームは分かりますが、家族信託はそこからものすごく違うものなので、信託という言葉に安心を感じてしまう割には意味が分からずメリットがわからないままです。どうしても家族信託が必要な場合はどんなケースがあり得ますか？

桑瀬 | 正直、メリットが何か私も分かりません。デメリットは、後見は公的機関が監督しますが、公的機関が関わらない。誰かがきちっと監督するという機関がないというのは、あまり安全ではないと思います。多分普通の投資信託は、金融庁が監督しますよね。家族信託は家族ですから。今そこに商売のネタとして、公的な監督がないから、税理士さんの一部や弁護士さん等が外部からサポートすることが重要だ。顧問みたいにフィーを取る、『相談が必要なんだよ』ということを行っている、という話です。ただ、2代、3代にわたって承継したいということは遺言ではできません。例えば一回目の受益者を自分にしておいて、自分が死んだら奥さん、奥さんが死んだら子どもということは、遺言ではできません。奥さんにあげて、子供にあげるという順番であげたいときは、どうしても家族信託が有効だと思います。ただ、税務のメリットは何もありません。その指定がかつちりできることが家族信託の最大のメリットだと思います。それ以外はそんなにメリットあるのかな？というのが正直なところですよ。

参加者 | すごく納得がきました。相談を受けていたお子さんはダウン症で、その次にどうやってつなげていくのかというとき、つまり世代を超える場合に案として出てきました。何となく続きそうなイメージもあるけれど、でも不安。だから出てくるんですね。

桑瀬 | 2代の承継ができないので、それができるというのが最大のメリットですかね。契約者には入れなくてもいいです。例えば、ダウン症の方が契約当事者になる必要はないので。贈与だと、どうしてもあげる、もらうという意思表示が必要になります。でもそれはいらなくて、受益者設定をしておけば、自動でお母さんが亡くなれば次はダウン症の子、ダウン症の子が亡くなれば、お姉さんや誰か、のように順々にできます。

参加者 | ありがとうございます。

参加者 | 地方にいと、皆さん今だとYouTubeで情報を得て、それに基づいて新NISAをやってみたいというケースが多いです。その中でそもそも運用をやった方がいいのか、やらない方がいいのかということを行っている人が多く、その辺りをどのように説明すればいいのかということをお伺いしたいです。

岡本 | それはすごく重要ですよ。なぜやるのかということを知らないと。やっぱりやらなくてはだめなんだということに対して確信を持っていないと、やろうとしても後はゲームみたいな感覚や投機になってしまいます。

結局、今もらっている給料は、今の生活費と退職後の生活費の両方なわけですよ。でも今もらっている給料の半分で生活をして残りの半分を退職後に使おうとすると、生涯貧乏で暮らさなくてはいけなくなってしまう。とって今、全部使ってしまったら退職した後が、ものすごく悲惨なことになってしまう。ということで、72の法則を思い出してください。仮に2%で36年運用した場合、資産は倍になります。今、100給料をもらっているのであれば、そのうちの30を2%で36年回す。30歳の方が66歳になる。そうすると30が60になる。それに退職金や年金、若干働くということに乗せていくと、生涯だいたい70ぐらいで生活をしていくことができる。大ざっぱに言えばそういう話です。

だから、お金の一部を少しずつでも増やしていかないといけないのです。それは何も売ったり買ったりして、今日はいくら儲かった、明日は損した。という話ではなくて、私の場合は、グローバルな株式インデックスファンドでコストの安いものをずっと積み立てて相場が上がろうか下がろうかやめないうとずっと続けるということしかないよ

思っています。売ったり買ったりして、毎回当て続けることはできない。個別銘柄で好きな銘柄を持つという事はいいことですが、それは別のものであるとして考えてやるべきだと思います。大事なことは、コアになる部分で生活を支えるようにする。YouTubeのみんなのお金のチャンネルでDIY資産運用講座を、月に一回ずつ出しています。その第1回でその辺の詳しい説明をしています。見てください。

参加者 | 家族信託はかなり法的によく分かったプロと、税務的にすごくよく分かっている契約ではないと心配です。家族信託専門の弁護士さんや税理士さんに聞くと、FPさんがかなり参入していて、契約書を見ると、法的にやばいとか、税理士さんの専門家に聞くと、この家族信託の契約書だと税務的に後でトラブルが起きるとい契約がかなりあると。そんな話も聞きます。桑瀬さんのような法の専門家や、税理士さんのよう税務の専門家がやっている分にはいいのですが、大体資産の1%くらいの報酬が取れることが多いので、1億円あれば100万円と、そこそこ報酬が取れます。FPさんにもよりますが、この人あんまり分かっていないなという人が、いっぱい家族信託の契約を取っています。将来トラブルになるのではないかと心配していますが、そんなリスクはないでしょうか。

桑瀬 | 私はまあまあ家族信託に詳しい方です。それでも業務で顧問弁護士をつけていますが、その弁護士事務所の中に、家族信託に詳しい弁護士の先生がいるので、按分を作ったときは必ずドラフトを見てもらい、必ず公証役場で作成するという事をマストにしています。公認会計士上がりの税理士で、すごく家族信託に詳しい先生に危ないと思うところは事前に相談をしています。そんなことをしている人は多分少ないでしょう。恐らくいろいろな判例はぼちぼち出ています。とある都内の公証人の先生と話をしている、『家族信託を私はまんますめられないですよ』と話をしたところ、公証人の先生も、『遺言があるのに、1億を持っていたら1億全部家族信託に入れる必要はないんですよ』と。3,000万円くらい入れておき、追加信託をできるようにしておけばいいところを、1億全部入れてしまうということは、おそらく、1%の報酬が取れるからだと思います。中身を見たらボロボロものとか、ちゃんとした受託者口座を作っていないとか、いろいろあります。不動産の登記を登記留保しているものもあります。それはフィデューシャリー・デューティーの問題もあります。そのうちいろいろところで裁判ができるようになってくると思う、と私の顧問弁護士のトップは言っていました（笑）そういうレベルですね。私も大きな話がきても、必ず「そんなにしなくてもいいんじゃないですか？」という話をしています。

岡本 | 今日もありがとうございました。

（文責 FIWA）

このページを印刷する

カテゴリ FIWAマンスリー・セミナー講演 1
タグ 【Vol.249】 2023年09月15日発行



📅 2023年9月8日

FIWAマンスリー・セミナー講演 2

【Vol.249】FIWAマンスリー・セミナー講演より（講演2）

資産運用の不都合な真実～投資のコストとアドバイザーの役割～

講演 FIWA理事長
岡本 和久 CFA, FIWA®
レポーター 赤堀 薫里

我々生活者が投資をするには関係先として、金融商品を売る販売会社、証券会社などがあります。投資信託の場合、投信の運用会社に加え、さらに投資先の企業があります。そのすべてのレベルで費用が掛かっています。それが我々の持っている退職後のための資金の流出につながっているという事実。これを知っておくべきだと思います。



世の中は生活者で出来ています。組織は、世の中の願いを実現するために生活者が組成しているものです。その生活者は消費者であり、企業での働き手であり、資本の出し手でもあります。生活者が企業を設立して、生産された財やサービスの買い手である消費者になると同時にさまざまな企業など組織で働いて、いろいろな形で資本の出し手になります。生活者、仲介者、企業。私有財産に基づく資本主義においては、世の中のお金は究極的にはすべて生活者が提供したものです。そのお金を企業が活用して、世の中に付加価値を創造している。その付加価値が投資リターンとして生活者に還元される。それが生活者のリタイア後の生活を支える。ただ、この生活者と投資先の企業の間には10数人の仲介人、業者が存在します。

問題は、世界の企業が生み出している付加価値から投資家が受け取る投資リターンは、明らかに付加価値の方が多いわけです。ここに流出があるからです。これをバンガードの創業者であるジョン・ボーグルさんは、『波乱の時代の幸福論』という素晴らしい本で説明しています。「金融市場から生まれるグロス（名目）リターンから金融システムに掛かるコストを差し引いたものが、投資家が実際に得るネット、実質リターンである。投資家は投資という巨額のコストが掛かる食物連鎖の底辺に置かれて食べ物にされている。」と述べています。

投資のリターンは、生活者が資金の出し手、企業が生み出している付加価値が投資リターンの源泉ですが、そこに多くの数の人たちが群がっています。もちろん投信会社や、販売会社、証券会社は言うに及ばず、マスコミだって投資本や雑誌を大量に売りたいのです。投資先の企業もそうです。企業が儲けて経営者が高額報酬を得たい。国

も税金を徴収してそれが無駄遣いになれば大きな流出です。いろいろなところでみんながこの一枚のピザを取り合っている。投資家はその中で一切れを配当金と値上り益という投資リターンとしてもらっているという事実があるわけです。

販売会社のレベルでみてみます。投資信託法ができたのが1951年。当初は証券会社が運用も販売も行っていましたが、1959年に運用部門が投資信託会社から分離されます。その後、投信会社は販売もやっていたのですが、販売会社を販社として分けました。しかし、実際には証券会社が転籍という形でほとんどすべての人材を派遣していた。クローズドなソサエティーの中で運用会社も販売会社もみんな大手銀行や証券会社等の金融機関の傘下としてつながっていました。

これに大きな一石を投じたのが1999年に発売された、さわかみ投信です。販売会社を一切使わないで、運用会社が直接販売する、直販というスタイルが始まりました。そういう意味では直販の会社もいろいろな転機を迎えていると思いますし、まだまだ改善される点はあると思います。

やはり投資家は、最終的には販社や投信会社のすべてのコストを負担しています。ボーグルさんも「運用会社は複雑すぎる仕組みの商品を売って、何億円もの手数料を稼ぐが、顧客である投資家に対しては、投資家がシンプルで低コストの商品を購入していたら得られたはずの金額の3分の1にも満たないリターンしか届けなかった。」と言っています。

クリス・シーアさんの「金融システム批判・序説より」という本の中では、『ファンドの運用に要する隠れた諸コストは、我々が実際に知らされている金額の2~3倍にのぼった。我々が諸手数料は年率1.5%と聞かされた場合、実際には3%であるかもしれず、年金資産の運用から生じるリターンの3分の2はコストとして消えてしまう。』と言っています。

一般に生活者が係わるプロと言われる人は金融機関の営業担当者です。彼ら、彼女らはお金の問題を解決するアドバイザーではありません。その人たちはセールス、営業担当者です。アドバイザーではない。これは不都合な真実です。

プロと思われている人でも相場の先行きは分からない。ホンモノのプロは分からないということを知っている、だから、短期的な相場見通しや有望銘柄を語る人は本当のプロではないと言えます。

『相場はこうなります』ということプロは絶対言いません。相場は分からない、ということを知らない人でも「当る」ことはあります。でもそれは幸運、ラックで、技術、スキルではない。ではどうしたらいいのか。リターンはコントロールできない。コントロールできるのはリスクであり、配分資産であり、コストです。

富を増やそうと思ったら、資金の流出（コスト）を本当に必要なものだけに限る。しかし、一般の生活者の方がそれを調べるのは難しい。そこにホンモノのアドバイザーの役割があります、販売に係わらないで相談者のライフプランと一緒に考え、それに沿ったマネープラン、投資プランを策定してそれを実践して行く際の伴走者として寄り添う。純粋にそのような仕事をするアドバイザーが日本にはほとんどいない。米英などではすでにアドバイザーと販売員は厳密に分けられているのに日本はそうっていない。これはインベストメント・チェーンに係わる利益相反という不都合な真実が内在するからでしょう。

講演では、販売会社のチェックポイントや証券売買に関するさまざまなコスト、運用会社のチェックポイント、ショートターミズムの蔓延への危惧、投資家の資金はどこへ流れていくのかについてわかりやすく説明。資産運用に関して存在が不可欠であるアドバイザーの役割を解説いただきました。

資産運用立国、資産所得倍増プラン、投資教育などが叫ばれていますが本当に必要なのは、生活者が投資に際して払う無駄な資金流出を最小化し、利益相反のない形で人生の伴走者となるホンモノのアドバイザーです。特定非営利活動法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®」はまさにそのようなアドバイザーを育成し、認定し、支援していくことを目的として活動をしています。

このページを印刷する

カテゴリー

FIWAマンスリー・セミナー講演 2

タグ

【Vol.249】 2023年09月15日発行

2023年9月8日

FIWA認定会員 投稿コーナー

【Vol.249】FIWA認定会員 投稿コーナー

特別支援教育と一般的な教育との違い

NPO法人お金で学ぶさんすう®
代表理事 住山 志津枝 CFP, FIWA®

* FIWAは金融商品の販売を行わないアドバイザーに与えられる称号です

プロフィール

障がいのある弟のいる「きょうだい」であり、障がいのある子の母親。
弟の浪費に悩む母を見て、障害の特性に合わせたお金の使い方や管理の教育を幼少期から行う必要があると思い、ファイナンシャル・プランナー資格を取得。
京都市教育委員会「京都学びの街生き方探究館」で7年間、特別支援教育を中心としたお金の指導経験を積んだ後に独立。
現在、特別支援学校・学級など、公教育と連携したお金の教育カリキュラム構築や普及活動のほか、認定講師育成も行っている。
教員研修、児童生徒向けのお金の授業や、福祉施設等の本人向け講座、支援員研修などの実施実績が多数あるほか、表彰、新聞等のメディア出演、専門誌の連載、論文発表などの実績もある。



私はFIWA®会員として「生活者」である障がいのある子どもたちのお金の教育活動を行っています。最近是一般の子どもたち向けにお金の教育を行う方から、障害のある子への対応についてご質問をいただく機会が増えていきます。FIWA通信インベストラライフ2023年4月号【Vol.244】<https://fiwa.or.jp/investlife/archives/6067>でも、高校生向けのお金の学習で「銀行」をテーマにした場合、特別支援教育と一般的な教育とでどのような違いがあるのかを紹介しました。今回は特別な支援が必要な子どもたちの大まかな特性やその対応を事例で紹介いたします。

【事例1】「想像」が苦手なAさん(小5/自閉症スペクトラム/療育B(知的障害))

Aさんは事前のアセスメントで保護者より「学校の買い物学習で自分の財布からお金を払うことができる」と聞いていました。ところが当法人の学習教室でAさんは模擬貨幣を投げて遊ぶ、学習を嫌がって泣くなど学習に取り組もうとせず、「本当に買い物ができるの?」と疑問を抱くほどです。「楽しんでもらおう」と、ゲームを取り入れるなどの工夫をしますが効果はありません。何度か学習を実施しても変化が見られないため、ある日思い切ってAさんを直接スーパーに連れて行きました。するとAさんは慣れた様子で商品をカゴに入れ、レジで代金もスムーズに支払うことができました。

なぜ、Aさんはスーパーで買い物ができるのに、教室では学習に取り組もうとしなかったのでしょうか?理由は、本物の現金、実際の場所ならば理解できるけれど、教室内の疑似体験が難しかったからです。特別支援の子ども

は「想像」や「抽象概念」の理解が苦手な傾向があります。Aさんは物事を正確に見極める力に優れており、権利保護

なにそっくりでも模擬貨幣と本物の現金は「全く異なるもの」と認識するのです。その上、スーパーとは似ても似つかない教室内で、買い物をするというのにはあり得ない設定にパニックを起こして泣き出したのです。

一般的な金融教育では、模擬貨幣の使用やゲームで楽しく学ぶことで学習促進の効果があるかもしれませんが、特別支援教育の世界ではゲームを通じて学んでほしい趣旨が伝わらなかったり、疑似体験という場所や環境そのものが負担になる、あるいは「実社会にも通じる」との意図がくみ取れず、学習を活かせないことがあります。

【Aさんの事例から読み解く特別支援教育の特徴】

特別支援の子どもたちは「想像」や「抽象概念」を理解しづらい特性ゆえに、金融教育で重要な「needs(必要なもの)」、「wants(欲しいもの、楽しみな物)」の学習が困難なことがよくあります。理由はこの判断基準も「概念」であり、目に見えないからです。

高校生向けの家計管理学習でneeds、wantsを教えた時、「ゲームは絶対必要！！」と言って聞かない生徒がいました。私が「朝、昼、晩のごはんを全く食べなかったら死んじゃうよ？ゲームもできないよ？」と言っても、生徒は「ゲームが無いと、ごはんも食べられない」と言います。実際、特別支援の世界では命に危険を及ぼす可能性があるぐらいに、飲まず食わずでゲームに没頭してしまうこともあるので注意しなければなりません。

【まとめ】

このように、「想像」や「抽象概念」の理解の困難さは、お金の学習にも影響を及ぼします。もちろん人は一人ひとり異なるので、全員がこのような状態というわけではありませんが、「話が通じにくい」、「接し方が分からない」と思われたときには、話の内容を具体的にしたり、現場に出向いてリアルな体験ができる学習に切り替えるとよいでしょう。一人でも多くの子どもたちが正しいお金との付き合い方を身につける機会が増えれば幸いです。

このページを印刷する

カテゴリ

FIWA認定会員 投稿コーナー

タグ

【Vol.249】2023年09月15日発行

歴史を通じて知る株式市場の本質 ～目先の価格変動に惑わされない視座のために～

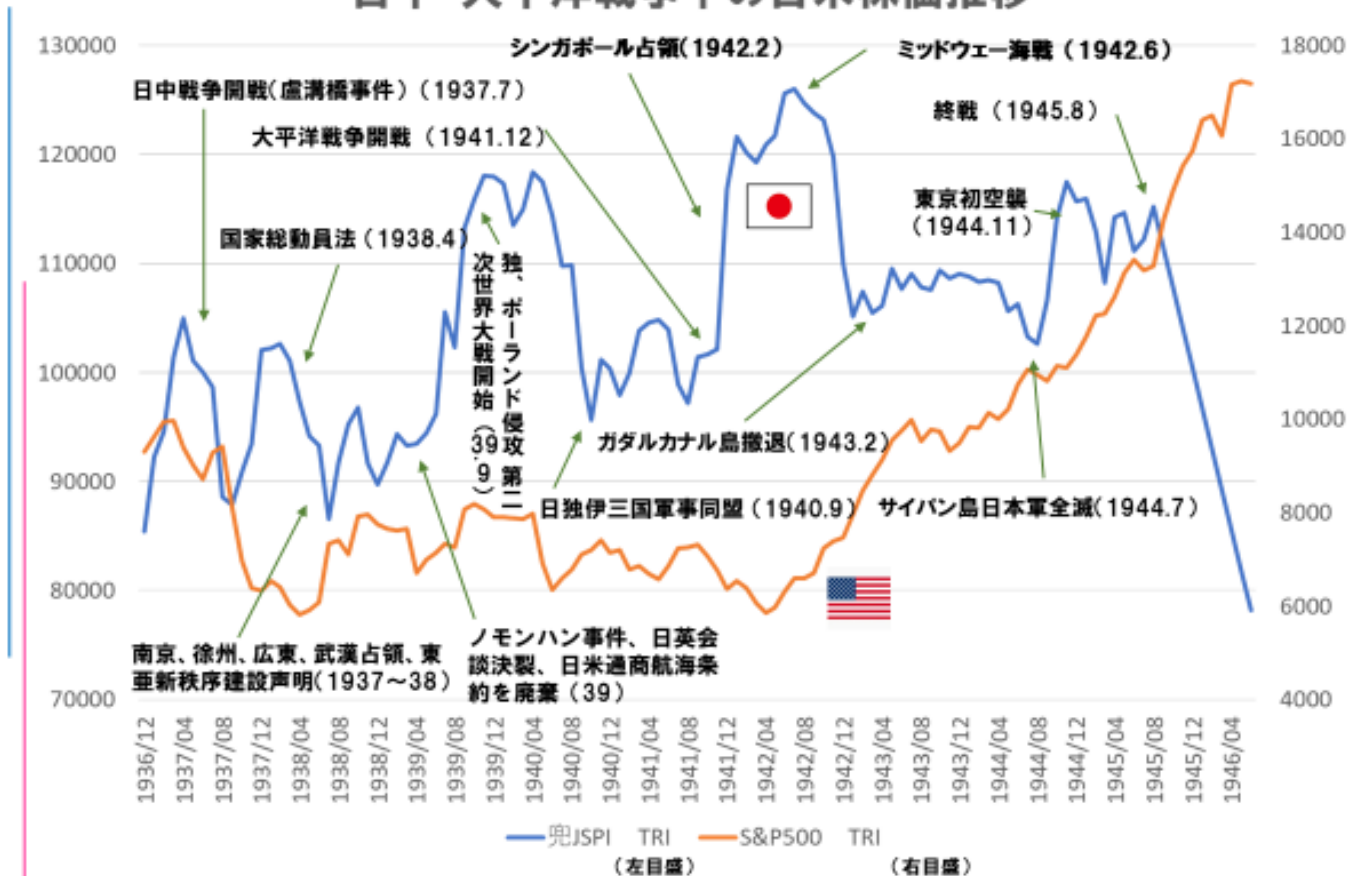
I-O ウェルス・アドバイザーズ 代表取締役会長
NPO 法人 FIWA® 代表理事・理事長
岡本 和久 CFA® 協会認定証券アナリスト

長期的な株価指数の大きな価値はその背景にある歴史を知ることによって投資判断の貴重な情報が得られると云うことです。前回、紹介した株価チャートを再度、ご覧ください。明治から終戦までと、戦後の株価の動きが似ていることがわかります。その理由をいろいろ考えてみると、日本国という国にもライフサイクルがあるのではないかと

気づきました。

ライフサイクルは一般的に、揺籃期、成長期、成熟期、衰退期という4つに分けて考えられています(諸説あり)。戦前の歴史を考えてみると、揺籃期に相当するのが明治維新から大日本帝国憲法が制定された1889年ぐらい

日中・大太平洋戦争下の日米株価推移



Copyright ©2022, Kazuhisa Okamoto, CFA, All rights reserved, Fiduciary and Independent Wealth Advisors (FIWA), NPO, I-O Wealth Advisors, Inc.

まで、つまりこの時期は富国強兵、殖産興業という国としての一大ビジョンに沿って歴史が進んでいったわけです。そして、成長期に入ります。第一次世界大戦が終わった(1919年)頃までとします。その間の出来事を象徴的に表すのは日本が世界の列強になんとか仲間入りをしたということなのです。

日清戦争、日露戦争に勝利し、第一次大戦にも参加をして一応勝ち組の仲間となりました。そして、日本は徐々に成熟期に入ります。この時期はほぼ大正(1912~1926年)に重なると思います。この時期は日本が列強のひとつとして入ったという自意識からほかの列強がしているように植民地を持ち、領土を拡大するという意欲が非常に強まった時期でした。

第一次大戦の後、反動恐慌があります。また、関東大震災も起こります。そして、経済的にも昭和恐慌、金融恐慌と続きます。ただ、一方、大正時代は大正デモクラシーと言われたように、庶民の生活が少しずつ良くなり、「今日は帝劇、明日は三越」という言葉に象徴されるような都市の明るい世相もあったわけです。一方は農村の状況はひどく国内の格差が拡大します。また、世界的にも米英のように「持てる国」と日独のように「持たざる国」の較差も拡大します。これが成熟期です。

そして、衰退期に入ります。国家総動員法、治安維持法が制定され、日中戦争が始まり、そして太平洋戦争へと流れ込んでいきます。そして最後1945年8月に終戦を迎えたわけです。

日清・日露戦争、第一次世界大戦、関東大震災、日中戦争・太平洋戦争とその時々的事件と株式市場の動き

を見てみると戦前期も株式市場はそれなりに世の中を移す鏡の役割を果たしていたのだなと感動も覚えます。

例として日本の株価指数と米国のS&P500指数の変動をみていただくと非常に興味深いものがあります。太平洋戦争が没発した直後は株価が急上昇しています。これまでの戦争体験から、「単純に戦争は買い」という思い込みがあったのかもしれませんが。当初、戦況も比較的順調で、マニラ、シンガポール、ジャワ島を占領します。しかし、ミッドウェー海戦で敗退し、ガダルカナル島を撤退し、さらにサイパン島で日本軍が全滅します。1944年、東京の大空襲が始まります。

こうして戦争は終結を迎えるわけですが、ミッドウェー海戦をピークとして日本の株価は弱い展開に転じました。しかし、サイパン島の日本軍全滅の時は、株価が上昇しています。非常に統制された株式市場だったことも事実ですが、一方で、終戦が近いというような憶測もあったのかも知れません。終戦直前の1945年7月ぐらいには、ビールなど食品、衣類、小売などの株式が堅調になり、市場では「平和株」と言われていたそうです。市場も国家も極限まで混乱した状態のもとでも株式市場はそれなりに市場機能を果たしていたという点で非常に面白く思います。

また、チャートの下線ですが、こちらは米国の株式市場S&P500指数です。ミッドウェー海戦を境としてアメリカの株価が上昇をします。このように、日本株が敗戦に向けて大きく下げていく一方で、アメリカの株式市場が上昇していったという点で、やはりグローバルな株式市場の動きは、日本にもアメリカにも影響を及ぼしていたということが分かります。◇



📅 2023年9月8日

動画紹介

【Vol.249】FIWA動画紹介

FIWAみんなのお金チャンネルで紹介した動画です

毎月第二水曜日にDIY資産運用講座をYouTube「みんなのお金チャンネル」で公開しています。目的は以下の2つです。

1. 投資未体験者、初診者の方に資産運用で本当に重要なことを知っていただく
2. FIWAアドバイザーが投資未体験者、初心者の方に資産運用で本当に重要なことをどのように解説すれば良いかをしていただく

各回、10～30分程度を考えています。お役に立てればうれしいです。質問もご遠慮なくどうぞ。

一生使える投信の選び方 (FIWAみんなのお金チャンネル)

00:00 75文字の資産形成のための投信選び
04:44 投信協会のファンド検索に入力
10:13 検索結果のファンドを調べる
16:00 自分で選ぶことの大切さ
(19:36)

第五回 DIY資産運用講座 一生使えるたった...



これまでのDIY資産運用講座

はじめに 投機・投資・資産運用

<https://youtu.be/zjVgaujYaCw>

第一回 今年の収入は今の生活費と将来の生活費の両方です

https://youtu.be/40t1_4krC7o

第二回 株式会社と金利を学ぼう

<https://youtu.be/ERhLpqApdQA>

第三回 75文字の資産形成と四つのWHY

<https://youtu.be/6EmayPLZFjY>

第四回 75文字の資産形成と五つのHOW

<https://youtu.be/J8QOGIR0HDg>

資産運用の基本はお金を守ること(みんなのお金チャンネル 岡本 和久)

00:00 資産運用の基本はお金を守ること

07:14 サギからカモを守る五カ条

11:13 借金はしない方がよい

17:30 バクチはもうからないようにできている

19:30 株式投資、暗号資産、外貨

(24:00)

資産運用の基本はお金を守ること (岡本和久) FIWAみんなのお金チャンネル



このページを印刷する

カテゴリー

動画紹介

タグ

【Vol.249】 2023年09月15日発行

一昨年春、北海道の釧路川にラッコが迷い込んできて話題になった。とてもかわいいしぐさで、貝をがち割って食べる。「rakko」は元来アイヌの話言葉だった。それを日本語で「ラッコ」といい、中国に入って「臘虎」という中国語になったのだと思われる。漢字が中国から日本に入って「かな」や「カタカナ」ができたわけだが、アイヌの話言葉が中国語になるのは興味深く、その独自の文化性は世界にキラリと光っている。

アイヌの人々は、かつては北海道だけでなく青森などにも住んでいた。北海道への本州の起点は、江戸時代には青森の十三湊(とさみなと)だったが、この「十」を「と」と読むのはアイヌ語の「トー」、つまり、湖から来ている。十和田湖の「十」も同じだ。

考えてみると、日本列島には北にアイヌ文化、東国にはナラ林文化にルーツをもつ文化、西国には照葉樹林文化にルーツをもつ文化、そして南には琉球王国の文化があった。この意味で日本列島は江戸時代、文化的に単一のJAPANではなく、多元的で多様な文化のJAPANSだった。

西国と東国の違いは、たとえば階段の上り下りの仕方、昆布だしと鰹だし、味付けのりと浅草のり、うどんとそばなどですぐわかる。この「4つの文化」が「重ね」「あわせ」られて、江戸時代には多彩な地方文化が開花した。そしてアイヌと対馬と長崎と琉球の「4つの口」でアジア大陸やヨーロッパとつながっていた。アイヌの人々は、ラッコやオットセイを捕って、その皮を中国に売り、中国の鮮やかな衣服や宝飾品を得て山丹貿易をしていた。葛飾北斎は1848年「唐土名所之絵」を描いたが、これは中国全土を視野におさめる絵であり、そうした視野を当時の日本は持っていた。

信仰の世界でも、神と仏は、浅草寺と浅草神社、東大寺と春日大社のように仲良く共存しており、江戸時代には儒教も、朱子学と陽明学共に入り、神仏に道徳的に重ねあわせられた。私はこうした多元的で多彩な日本が大好きで、誇らしく思う。

通貨も単一ではなく、東国の金と西国の銀、そして銅の三貨が重ね合わされて流通していた。金と銀は変動相場で、両替商が介在していた。そして銀のほうが国際通貨であったので、幕末にbankという英語が入ってきたときに、「金行」ではなく「銀行」とされた。

物流は海であり幹線海路は日本海側で、たとえば北海道の昆布は、十三湊から秋田・新潟・能登半島・金沢・敦賀・温泉津を経て、下関から瀬戸内海を通り大阪へ、博多から対馬を経て朝鮮へ、薩摩から琉球を経て中国へと廻っていった。海は人々を融通無碍に繋いでいた。

「表日本」と「裏日本」という概念は、明治三十年代に生まれた。それまでは日本海側は中国大陸につながる「内日本」と呼ばれていた。「表日本」東京の中央政府に、文化も教育も経済も政治も一極集中し、神仏分離で仏を排除し、藩を県に、協同組織の家を家長制にし、半島や島を孤立させ「内日本」を「裏日本」にしたのは、一途で過激な明治近代化の「のめり込み」のなせる技だった。こうしてJAPANSはJAPANになっていった。日本は明治30年代に英国と同盟を結ぶまでの国力になったが、文化の多様性は失われていった。



<モデルポートフォリオ:2023年8月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円
4資産型	積極型	0.27	17.83	10.23	10.57	13.93	13.62	41.00	71.59	183.23
	成長型	0.29	11.48	7.17	7.56	9.39	9.26	25.78	44.72	119.37
	安定型	0.31	5.33	3.98	4.45	5.46	5.02	12.02	21.44	66.72
2資産型	積極型	-0.08	16.99	12.04	11.56	15.40	13.48	46.18	83.12	226.81
	成長型	0.35	12.10	8.91	8.55	11.01	10.19	31.12	54.30	150.26
	安定型	0.77	7.27	5.62	5.44	7.35	6.96	17.39	29.34	87.65

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2022年8月末に1万円投資資金を積み立て始め、2023年7月末の投資資金までとする(2023年8月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。

出所: イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。Morningstar Directについてのお問い合わせは、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール (<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>) まで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)	
		積極型	40%	40%	10%	10%
		成長型	25%	25%	25%	25%
		安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)		
		積極型	80%	20%		
		成長型	50%	50%		
		安定型	20%	80%		

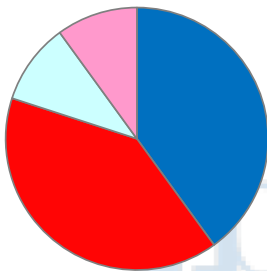
ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信「インベストラ이프」のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

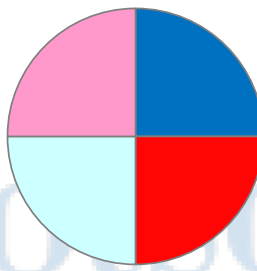
4資産型

- 国内株式: TOPIX
- 外国株式: MSCI KOKUSAI
- 国内債券: NOMURA-BPI (総合)
- 外国債券: FTSE WGBI (除く日本)

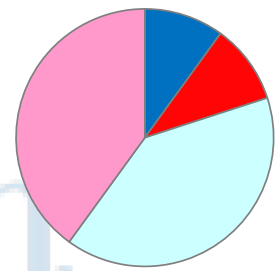
積極型



成長型



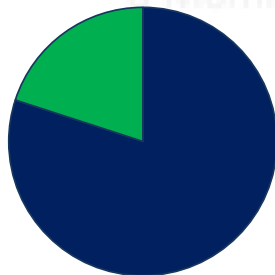
安定型



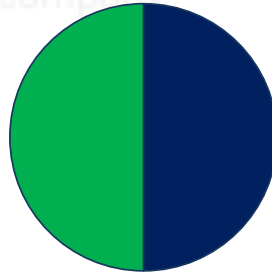
2資産型

- 世界株式: MSCI ACWI (含む日本)
- 世界債券: FTSE WGBI (含む日本)

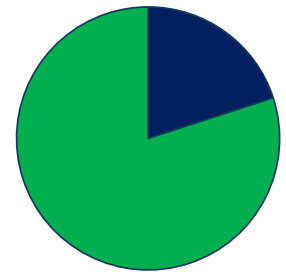
積極型



成長型



安定型



<直販系ファンド:2023年8月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。
特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。

運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク 10年 (年率)	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				2023年8月末		2023年 8月末	2023年 8月中
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月~ 284万円	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月~ 284万円	純資産 (億円)	基準価額 (円)	(前回掲載 時) 基準価額 (円)	推計資金 純流入額 (億円)
セゾン投信	セゾン・グローバルバランスファンド	1.99	12.06	8.56	8.04	10.72	10.87	31.15	51.70	—	13.30	78.69	182.04	—	4,035.2	22,151	20,646	28.49
さわかみ投信	さわかみファンド	-0.12	13.33	6.42	9.00	16.89	12.89	29.36	49.94	264.67	13.55	77.62	179.93	663.70	3,904.1	35,396	32,829	3.18
セゾン投信	セゾン資産形成の達人ファンド	1.40	18.85	10.89	12.87	18.19	14.85	44.38	88.72	—	13.78	86.63	226.46	—	2,771.3	37,170	34,595	24.90
レオス・キャピタルワークス	ひふみ投信	-0.11	15.03	4.48	12.51	16.52	12.14	20.59	58.72	—	13.46	72.36	190.47	—	1,579.6	63,690	59,293	-2.08
鎌倉投信	結い 2101	-1.11	22.23	9.64	11.10	17.10	16.95	43.59	77.65	—	14.03	86.15	213.18	—	510.0	46,057	42,768	8.79
レオス・キャピタルワークス	ひふみワールド	-0.11	4.29	1.76	4.73	8.55	2.75	7.61	19.74	—	12.33	64.57	143.69	—	496.2	21,217	20,584	1.51
コモنز投信	コモنز30ファンド	0.16	18.30	—	—	—	14.53	—	—	—	13.74	—	—	—	471.1	18,376	17,026	1.88
ありがとう投信	ありがとうファンド	1.36	17.08	9.40	9.79	16.78	14.74	36.28	64.10	—	13.77	81.77	196.92	—	199.2	29,732	27,574	-0.20
ユニオン投信	ユニオンファンド	0.85	16.14	7.19	7.74	15.38	12.23	30.85	47.46	—	13.47	78.51	176.95	—	122.7	34,791	32,781	0.78
クローバー・アセットマネジメント	コードモファンド	0.31	6.84	3.75	8.66	14.70	7.36	14.56	40.13	—	12.88	68.74	168.16	—	99.4	22,223	21,117	0.08
コモنز投信	ザ・2020ビジョン	-0.73	9.36	8.68	—	—	8.54	28.58	—	—	13.03	77.15	—	—	82.6	24,857	23,423	0.19
レオス・キャピタルワークス	ひふみらいと	0.86	15.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	35.8	12,035	11,428	1.08
セゾン投信	セゾン共創日本ファンド	-1.17	-2.63	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	28.6	9,069	9,197	-0.27
クローバー・アセットマネジメント	浪花おふくろファンド	1.29	12.21	5.07	8.99	14.22	10.30	19.04	43.56	—	13.24	71.43	172.27	—	16.9	27,214	25,863	-0.02

*積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとします。例えば1年の場合は2022年8月末に1万円で積み立てを開始し、2023年7月末投資分までの8月末における運用成果とする(8月の積み立て額は入れない)。

出所: MorningstarDirect のデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせはイボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)にてお気軽にご送信ください。

Copyright ©2023 Ibbotson Associates Japan, Inc.